

大  
報

# おおだて

62年1月1日号  
(No.428)

編集と発行 大館市役所総務課

— 住 民 登 録 —

(12月1日現在)  
人 口・71,372人(-38)  
男 33,853  
女 37,519  
世帯数・22,057 (+12)  
( )内は前月比

市の木・秋田杉 市の花・キク



▲和太鼓を練習する子供たち——東(あずま)太鼓  
(東町子供会の皆さん)

あけまして

おめでとう

ございます

# 住みよい大館市をつくるため本年もがんばります



市議会議長  
菅原 勇治

## 新年の ごあいさつ

市長  
島山 健治郎



### 攻めの年へ

新年明けましておめでとございませう。国際化の荒波から逃れることができず、深刻な不況に耐え抜いて参りましたが、ようやく底値を脱した感じがしており、政府の対策もそろつてきました。

これらを最大限に活用すると共に通称「三バイパス」の公共事業等を軸に、耐えの年から、体質改善を含めて今年からは「攻め」の年に転換して行かなければならないと存じます。

卯年にちなみ「長耳は情報」「白毛は清廉潔白」「跳ぶは飛躍」そんな年でありますよう念じます。

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

長引く不況は、地方財政を一層深刻化させているとともに、市民生活をも極度に圧迫していることも事実であります。私ども市議会は市民の代表として、皆様のご期待にそつよう懸命の努力を続けて参りましたが、構造的な背景もあつて不況克服には未だ道遠くの感を強くしております。しかし「やるしかない」ことばどおり、今後とも地道な努力をバネに、元氣の方策を求めていく所存であります。より一層のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

市議会議長 成田 松太郎

老人ホーム所長 渡辺 喜一郎

市議会議員 齋藤 芳二

水道課長 佐々木 悦美

齋藤 芳雄

出納室長 栗盛 栄次郎

佐々木 丈雄

議会事務局長 高橋 光武

佐々木 鶴治

選管事務局長 岩崎 吉藏

八木橋 雅孝

農委事務局長 長谷川 武

八木橋 景一

監査事務局長 岩居 吉藏

安達 友一

教委・総務課長 田面 敏夫

安達 信一

学校教育課長 小川 四朗

鳥潟 与四左衛門

社会教育課長 松井 勇一

滝沢 亥之助

市民文化会館館長 齋藤 武志

桜庭 亥之助

中央図書館長 浜松 和男

伊藤 武吉

中央公民館館長 齋藤 誠造

日景 章二郎

消防署長 近藤 貞一

黒田 常人

消防副署長 稲葉 貞一

松崎 重藏

消防署長 成田 喜三郎

助役 丸屋 弘尚

警防課長 佐々木 清

収入室長 伊藤 多波浩

総務課長 成田 喜三郎

企業課長 伊藤 多波浩

第一内科科長 吉田 順一

職員課長 榑田 邦夫

第二内科科長 近江 忠尚

財政課長 森野 三宏

第一内科科長 上原 修

税務課長 山内 義則

(兼)栄養科科長 武内 勇俊

市管課長 三浦 正孝

泌尿器科科長 八木橋 真生

市管課長 三浦 正孝

小児科科長 岡庭 信一

環境衛生課長 島田 広治

産婦人科科長 神部 憲一

環境衛生課長 島田 広治

整形外科科長 藤沢 洋一

農林課長 島田 利一

神経精神科科長 林 洋典

土木課長 山田 勲

放射線科科長 戸田 正典

都市開発課長 阿部 信一

臨検検査科科長 猪野 満博

環境保護課長 田畑 友弘

薬剤科科長 山田 亮博

福祉事務所長 下遠重吉

総務局局長 猪野 泰一郎

# シンポジウム

## 「どうする大館—若者は提言する」

# まちづくり21世紀計画

昨年十一月三十日、市と青年会議所が二十一世紀へ飛躍する大館市のまちづくりを考えようと「まちづくり二十一世紀計画」シンポジウムを開きました。シンポジウムでは、観光、産業、人づくりについて市民から大館の現状を見つめたいうえて明日のまちづくりについての貴重な提言が述べられました。それについてアドバイザーからは経験や事例を混じえた助言があり、予定時間をはるかにこえる熱のこもった討論が繰り広げられました。



### アドバイザー

- 三宅 淑 (秋田県中小企業振興公社理事長)
- 山本 悦郎 (山本建築設計事務所代表取締役)
- 渡部 誠一郎 (秋田魁新報社取締役論説委員長)
- 畠山 健治郎 (大館市長)
- コーディネーター  
清水 浩志郎 (秋田大学鉱山学部教授)

### どうする観光

大館青年会議所理事長越後国行・開会に先立ちまして、一言述べさせていただきます。地域興しというのは、連日テレビ、新聞で見られると思いますし、そのためのシンポジウムも開かれています。しかし、どんなアイデアや提言が出されても実現のためにあらゆる困難を乗り越えて、わが古里の新しい未来のために愛と信念を持って実行していくという心構えが必要だと思えます。今日のシンポジウムは提言だけの場に終ることのないよう市民の皆さん一人一人が立ち上っていただきたいと思えますし、わが古里の未来像について夢を語り合っていたきたいと思えます。

清水・これからシンポジウムに入るわけですが、私、この「どうする」という言葉を聞いたとき、

ドキッと思いました。それほど居直りに近い言葉にもとれるわけで、大館の皆さんはたいへん危機感をもっているということを感じました。さて今日のテーマは三つあります。第一が「どうする観光」、第二テーマの「新しい地場産業興し」、第三テーマの「人づくり」の観点から話し合いをしていただきます。それでは第一のテーマの「どうする観光」ということについて秋田相互銀行大館支店長の村山健一さんから、ご提言をお願いします。

村山・私は、東京に四年、札幌に二年、都会生活をしてきました。大館に入った第一印象はなだらかな山並み、それから町並み、地名、町名、それに商店街と住宅街がキチンとなっており、城下町の名残があります。これらを生かして修学旅行コースをつくることかできないかどうかを常日ごろ考えています。修学旅行コースというかには曲田の教会、松下村塾などの活用、まつりへの参加、それにプラスして体験学習、地元小中学生との交流を行ってもいいと思えます。この交流によっておみやげ品の工夫、あるいは地場産業をどうしたらよいかということに、いろんな見方や情報が入ってくるのではないのでしょうか。このためには大館を売らなければなりません。例えば角館です。「雲のじゅうたん」というテレビドラマ以来急激に人が増えていきます。いま弘前、津軽は「いのち」でPRされています。大館市には忠犬ハチ公や、上原敏さんなどがPR、テレビド

ラマの材料になるのではないのでしょうか。観光は、ただ見て通り過ぎるだけじゃなくて、そこに遊びが工夫されています。再び来てもらうという意味からも修学旅行コースをぜひ検討してみてください。清水・続いて貝森善勇さんをお願いします。



貝森さん

貝森・いま大館に求めたいものは、友だち同士や家族をろって休日

日を過ごせるレクリエーションや、気軽に汗を流すことのできるスポーツ公園です。十和田、八幡平が背景にあるものの単なる通過地となっている大館は、これらの建設によって十分引きつけることができると思います。十和田インターまたは碓ヶ関インターから市内まで二十分に位置する大館は条件がそろっています。矢立には地形を利用した巨大アスレチック、山道には遊歩道を設置し森林浴を満喫してもらおう。大滝温泉には、お湯や地熱を利用した植物園をつくったらどうでしょう。結論として、長根山運動公園の拡張とレクリエーションゾーンの建設、矢立・大滝温泉に新たな施設の導入と宿泊機能の向上、アメッコ市を見るまつりから参加するまつりへ発展させる。また、冬まつりを増やし、冬大文字や鳳凰山からの花火など、新しい企画を考えたらどうでしょうか。

清水・続きまして吉田秀人さん

をお願いします。

**吉田**・観光を考えたとき、大館には数多くありますが連続性がな

いように思えます。一番いいのは通年観光ができれば最高です。そこで通年観光とするには、日本に一つしかないものをつくるとか、つくれないものは買ってくればいい

といわれています。私は建築の仕事をしていますが、大館の町を日本一きれいな町にできないかと考えています。それには意識の向上、人づくりが大切ですが、何十年もかかると思いますので、すぐできる

小さなことから実行したらいと思

います。例えば町から電柱をなくするだけでもきれいになります。また建物を建てる時には、建物の前に杉を植えたら、何年か後には並木道になります。それに思



吉田さん

きって建築制限をし、高さや色、形を統一してはどうでしょうか。人を引きつけるには五感に訴え、感動させることだそうです。もしよければ山本先生にアドバイスを

お願いします。

**山本**・吉田さんのお話のとおりだと思

ます。また芸大の学生を招いて、彫刻をつくつてもらい道路などに配置していく。将来は彫刻の街という

ことになってほしいと思

います。それから街には看板が非常に多いんですね。看板のために町並みは消

されていく状態です。看板の問題を考

えていく必要があるだろうし、建物の色や形、高さについてもある程度建築制限が

されるべきだと考え

ます。**清水**・渡部先生からお話をいただきましたと思

います。**渡部**・大館の人たちに会って

つも気になることは、「この地域は高速体系に組み込まれて



△アドバイザーの渡部先生、山本先生、三宅先生、島山市長 (左から)

あ

い観光がなければいけません。もう一度大館に来てみたいという最大のおみやげが必要だと思

います。観光をどう考えるか、私は、極端に

いえば人集めだと思

います。いろんな全国大会なり、学会などをど

んどん誘致させるのもいいんじゃないかと思

います。私がちょうど部長のとき、島山市長さんが「黄金の古

里」という発想をもちまして、現在も

続けておられます。これはやり方

が正しいとは思

いません。この黄金の古里を例にと

って話しますと、まず人集めですが、やはりお

金を持って

いる人、それに非常に興味をも

っている人を集めるわけ

です。アクセサリーとなれば

やはり女性ですね。こういう方をここに

集めて若い男性がアクセサリー

作りを教える。こういうふう

にやりますと喜んでみんな来ると

思います。それが口コミで全国に

広がっていく

れば、エージェンツの観光コース

にも入れてもらえ

ると思

います。私

がちょうど

部長のとき

、島山市長

さんが「黄

金の古里

」という

発想をもち

新しい地場産業興しをどうするか

をどうするか

**清水**・次に第二テーマの「新しい地場産業興し」に進めさせていただきます。日景勇悦さんから提言をいただきました。日景さんからご提言をいただきました。日景さんからご提言をいただきました。日景さんからご提言をいただきました。

**日景**・大館の地場産業である鉱山の不況等で若者はほとんど県外へ行って

います。それがためにも企業誘致を

して

もらわ

なければ

な

りませ

ん。そ

こで

市の

予算

すが、これからは全面的に市が乗り出し、大型店の影響を受ける商店については低金利の貸し付けや長期返済などの援助をしてもいいんじゃないでしょうか。あの大型店の例を見る限り、大館には大型店の進出はかなり難しいと思います。二十一世紀の大館は、仕事があつて若者が県外に出ていかななくてもずっと働けるような町、他市へ行かなくても買物ができる町になればと思います。

**菅**・大館は自然と人が非常によく調和しており、実際に仕事をしています。この大館は物を作るには格好の場所だと確信しています。また、若い人が非常に働く場所を求めているということを痛感しています。私は提言というよりも、大館の現状をみてまず働く職場というものを考えてみたいと思います。いま本物嗜好がブームになっておりますが、大館には木材があり、鉱石があります。これらを生かした企業づくり、雇用の場の確保について取り組んでいきたいと考えています。

**清水**・続きまして飯塚家司さんをお願いします。

**飯塚**・私は漬け物が好きなものですが、ガツコの町づくりについてお話しします。私は、大館で自然に入手できて他地域に「なるほど東北のイナカから出てきたものだ」というような商品作りが、必要ではないかと考えています。特に女性を巻き込んだ形の全市民のアイデア、家庭に古くから伝わ

っているようなもの、漬け物にしてみると、これぞ大館の漬け物と呼ばれるようなものが作れないかということですね。例えばきりたんぼの菜としてきりたんぼ漬けが



飯塚さん

あつたとか、忠犬ハチ公も犬なのに漬け物が好きだったとか、鉱脈を捜すときには金脈漬けを食べたとか……いわゆる新しい説を作ってもいいと思います。要するに市全体が地域興しのために具体的に熱気をはらむような状況がほしいのです。それに作ったものを販売する物産公社のような中心的機関が必要だと思えます。

**清水**・どうもありがとうございます。まず初めに三宅先生にアドバイスをお願いします。

**三宅**・地域に雇用の場を確保するためには、地域の人たちが自分たちの職場は自分たちで作っていくという発想と、それでできない分野については企業誘致ということになります。何かあると役所から補助金をもらいたいとか、役所に機関を作ってくれだとか、こういうことを言っていたら大館はよくなりません。よく企業誘致の秘訣は何かと聞かれるわけですね。企業誘致の場合、第一にその地域の人たちの「ぜひ来てくれ」という情熱が必要なのです。それから交通条件の善しあしは別にどうということはないのです。いま一つは、その会社の企業進出

の決定権を持つ人の人脈をたどるんです。例えばその人を直接知らなくても人のツテをたどって会社のトップに決断させることですね。働く場の問題ですけど、これからの企業はそんなに人を使わず、ほとんど自動化してくるだろうと考えられますので、一つや二つを企業誘致したからといって働く場が十分にあるだろうとお考えにならないと期待はすれなくなります。

**清水**・次に渡部先生にお話をしたいと思っています。

**渡部**・企業誘致の話が出たわけですが、秋田市はテクノポリス指定を受けていますけど、関東、太平洋側の大都市周辺の開発が活発になり、企業の地方立地にブレイキがかかりつつあります。もう一つ大館は必ずしも企業側からは高い点数をもらっていません。いま東京で社会福祉施設を造ると建物は五億円くらいですが敷地に百億円もかかるということですね。そこで地方分散です。幸い当市は高速体系に組み込まれていますから、東京の福祉施設を引き受けるという考えをなさってもいいと思います。これは絶対に倒産させませんから、企業よりは、はるかに安定した職場です。福祉大学を出た人がどんどん入っていく職場です。もう一つ広大な敷地を必要とする研究施設を誘致すべきだと思います。それに情報処理センターを造り、ありとあらゆる情報の加工とインプットを引き受け、そこで生まれたいものを光ファイバーで送るといふ近代型企業の立地も十分考えられます。ある人から「大館があり

物で勝負をすれば、秋田犬をどんどん増やし、渋谷のハチ公の隣に店を出して子犬を売ったらどうか」ということをしゃべってくれといわれましたのでつけ加えます。企業が不利な条件を克服して来るか来ないかはトップ次第ですね。そのトップをくどくどにはトップ対トップ、サミットセールスでなければいけません。そのために必要なのは人脈ネットワークなのです。大館市は、綿密に郷里出身や周辺の秀れた人材のリストアップをし、人脈をていねいにみがき上げることから始めなければいようがないと思います。また「なれませんが、ここは北緯四〇度、世界の北緯四〇度を見てみなさい。ニューヨーク、ワシントン、北京、ソウル、ピョンヤン、ローマ……みんな四〇度なのに秋田県はダメだ」というのはおかしい。雪と寒さ、交通体系が決定的な条件の悪さだ」という論理は当たらないと思

**三宅**・人脈の話ですが、大館市出身の人ばかりだということになると非常に範囲は狭くなります。市民一人一人がいろんな人を知り合っているわけですから、そういう人脈をフルに使うと企業誘致はやさしくできると思います。

**山本**・地場産業興しということですが、地元には何ががあるのかということはいま一度考えてみたほうがよいのではないのでしょうか。私は、地場産業ということでは焼き物で、最初は歩道のカラーブックを造って見たらどうでし

うか。また杉の間伐材を校倉式の建物にし、別荘地などに利用するたいへんおもしろいものがあります。漬け物の話も出ましたが、全国ではいろんな漬け物が商品化されていますが、大館にはないですね。七、八十歳のおばあさんが独得のおいしい漬け物を作る技術を持っていますので、この方々にお手伝いをいただいで、正統の味を後世に伝えることも必要ではないかと考えています。まずできることから一つ一つやってみようという心掛けが必要だと考えます。

**清水**・市長さんからどうぞ

**市長**・公民館の文化祭や郷土品まつり、生活改善グループの方々の生活工夫展などは毎年いろんな生産物を出して技術の向上を図っています。ところがそれが組織化されて生産に結びついていくというところまでいかないのです。ここが一番弱いところであるし、これから手をつけなくてはならない大事なことだと思っています。

人づくりと福祉の心をどうするか

**清水**・次に第三番目のテーマといたしまして「人づくりと福祉の心をどうするか」について宮原文弥さんからご提言をお願いします。

**宮原**・今日ここにお集まりの皆



宮原さん

さんは、まちづくりを前向きに考えておられる方が多いわけですが、

この心の問題で大館には後ろ向きにものを考える方も結構いらっしやるんだということを提言したいと思います。テレトピア構想とかテクノポリスだとか、ニューメディア、それに一村一品運動や地域興しなどを新聞で読みますと、大館は非常にとり残されているんじゃないかと感じているのは私だけじゃないかと思うんです。最近大館に転動してこられたマスコミ関係の方が「大館っておもしろいところだ。十人の人に会えば、みんな口をそろえて景気興しのためになんとかしなけりやいけぬ」というんです。ところが「じゃ何をやるんですか」というと、十人も「どうしよう」という答えが出てくるというんです。これがいま現実の大館なわけです。何か無意識のうちに私たちは劣等感を持っているんじゃないかと思えます。大館に転動してこられた方に「この町はどうですか」と尋ねますと、必ず出てくる言葉が「とっつきにくい。つつけんなんだ。和がない」。これも我々なんです。今日ここへ来る前に大正九年十一月二十五日発行の「大館案内」という本を見ましたら「天時地利、兼ね合わせている大館が、大いに振うべくして振わざるの理由は多々あるが、なかでも人の和なきが先ずその第一」と、大正九年にこんなことが書かれていますね。こうなれば大館の人の和がないということは伝統的というか、筋金入りなわけです。今後心の問題で課題となるのは何かといたら、地域を活性化していく中で長所を伸ばしていく

ことに心掛けていかなければいけないと思います。二十世紀までには、この大館、この地方の文化、社会、そして自分の生き方というもの、ますます洗練させていかなければいけません。  
**清水**・どうもありがとうございます。次の提言を松山紀光さん



松山さん

**松山**・私は、もう少しやる気、協調性をもっと大館の人には必要なんではないかと思えます。また私たちは、なんでも行政に頼む前に私たちが何をやらなければならぬのか、自分たちがこういうことをやったらどうなるんだらうかということを考える必要があると考えます。特に子供のいまの余暇活動についてですが、塾やクラブ活動のない日に一週間に一日でもいいから、町内で何かをやるといふ考えも必要ではないかと思っております。いま東町の町内で曲げわっぱ太鼓、東(あずま)太鼓を一生懸命習っている子供たちがいます。この前城西小学校の学芸会に特別出演して大変な反響を呼びました。これはただ太鼓をたたいてよかったですというのではなく、子供たち

つたという新聞記事もありました。ただ勉強、勉強と追いまわすのではなく、何か協調性をもった子供に育てなければならぬと考えます。それから学校教育の中に、市民から講師を頼んで道徳の時間にいろんな体験を聞かせることもあってもよいと思います。次に施設開放ということなんですけれども、いま学校の施設は開放されていいますが、これに加えて官公庁の施設も開放して地域の集まりを持てるような機会を提供してほしいと思えます。そういう場で子供から大人まで、いろんなことを考え、話し合うことで地域の盛り上がりにつながり、地元の活性化にもつながっていくんじゃないかと思えます。最後に、私たちは広い視野に立つて、よその町はどうなのか、よその町から大館を見た場合、どういう状態になっているのかというところを逆に考えて見る必要があります。いま行動をおこす時期ではないだらうかと考えています。  
**清水**・もうひとつ方、黒田一志さん



黒田さん

に会員が減少し、いろんな事業をやっても参加する人も減っているわけなんです。青年会の状況は自分も含めて面倒なことには見向きもしないで、ラクなことや楽しんで

いことには参加するという面が多くあります。これからの大館を考え、つくっていくのは私たち青年が主体となっていくかなければいけないと思えます。そこで青年たちが交流と研修のできる宿泊施設を造ってもらいたいということですね。若者が気軽に討論できる場所一つ増やしてもらいたいと思えます。  
**清水**・ありがとうございます。三人の方から提言をいただいたわけですが、人づくりについて渡部先生から順にアドバイスを申し上げます。  
**渡部**・地域振興というものをミクロに見ることも必要ですが、いまは教育文化的土壌の肥育というものを市政の最大の柱にしていた方がいいです。そうしないと知的興奮に満ちた壮大なイナカはできないと思えます。その知的水準を上げるとすれば、具体例を申し上げますと、大館には曲げわっぱなどがあるんだから全県一区にした秋田県立伝統工芸品高校をつくってもいい。それからさつき青少年の施設を造ってくれというお話がありました。そんなものはいらないと思えます。何よりも松の下村塾があるんじゃないですか。この塾を利用して、毎日少年、ご婦人、青年、お年寄りたちが入れかわり立ちかわりして研修会なり、講習会なりが開かれている状況の継続こそが、大館をどん底から救う一番のパワーになるんじゃないかと思えます。  
**山本**・子供の教育については、いくら家庭で勉強し、学校でやっ

ても一つの限度があります。学校そのもののレベルを全体的に上げ、環境をよくしていくかないと、自分の子供も、よその子供も成長しないと思えます。これを一般社会に入れかえてみますと、これをよくしたいというならばそれにつきこむエネルギーと同じ比重のものを社会のため、人のために尽すという必要があると考えます。ですから五〇％の力を自分の子供に尽すならば、あと残りの五〇％は自分の住んでいる社会に尽すという心があって、初めて美しい町ができると思うんです。  
**三宅**・いま人の足を引っ張る、和がないというようなご提言がありました。秋田県全域、日本列島がこういう性格をもっていると考えます。ただ度合いの問題はあります。地域のことを考えるためにいろんなプロジェクトを作り、そのリーダー同士が話し合いをするということになれば心の満足もできますし、ふれあう機会も多くなるので足引つぱりとか、和を乱すということとはなくなってくるんじゃないかと思うし、地域全体の発展にもつながっていくわけですね。  
**市長**・市の社会教育のあり方、中身はどうなっているんだらうかと率直に反省してみました。結果をいいますとカリキュラムは公民館で作る「希望の方は勉強してください」という中身になっていきます。しかしこれを急激に変えるというわけにはいきませんので、学習しようとする内容は、学習しようとする方が決める。そして公民

館は、それが一定の方向にキッチンと進んでいくお手伝いをしていきたいと思っています。行ってみたいだけかに頼めばなんとかなるというような社会教育がずっと行われてきたところに育つ芽も育たなかったのではないだろうか、率直に反省しており、いま徐々に転換をしているところです。

**清水**・どうもありがとうございます。そのほかに会場のほうから提言される方はありませんか。  
**花岡**・青年会議所の花岡有一と申します。私はこの大館ほど住みよいところはないと考えています。この大館には、大きな観光資源はないけれど、曲げわっぱ、秋田犬、曲田の聖堂などすばらしいものがあります。今日お集りの皆さんには郷土を誇りに思う心を大切にしたい。教育や観光、産業にもつながっていくだろうと思います。また、この大館の秀れた先人には安藤昌益さん、鳥潟博士、上原敏さんがおられます。こういう方たちを顕彰することから始めたらどうかと思います。

**菅原**・私は老人クラブと芸文連の代表をしている菅原保です。私たちは大館のいいところをもう一回見つめ直して、いいところはいい、悪いところはどこなんだというところをはっきりつかんで、各団体の幹部の方々が率先してがんばってほしいと思います。

**青柳**・連合婦人会の青柳珠代です。先ほど青年会の方のお話をお伺いしております、なんだか施設がないから困るというよう

話をしておりましたが、やる気



青柳さん

なれば市内には施設はいっぱいあるのでどこでもできると思います。そう弱音をはかなくて、これから大館を背負って行く方たちです。で、大いに新しいものをどんどん開発して行ってほしいものです。

**畠沢**・農協に勤めています。畠沢成治です。「文化砂漠」ということで文化の殿堂市民文化会館ができたわけですが、それを活用するいわゆるソフトウェアの部分のづくりというのがすごく大変だと感じています。また文化活動を活発にするためには、各分野のグループ相互のコミュニケーションをとり、大きな文化活動にしていきたいと思

まとめ

**清水**・それでは最後に先生方から今日のシンポジウムについての感想をお願いします。

**渡部**・大館はこれから何を目指すのか。私は知的興奮が満ちた、そして学問とか文化が尊重される風土づくりを根底においていたいただきたい。せっかく松下村塾というものがあるのですから、そこをベ

イスにして先人先覚の足跡をまっすぐとすることです。第二の地域経済活性化については、一回倒産してよみがえった人たちを集め

てじっくり話を聞くという講座を松下村塾でやっていただきたい。その中には貴重な教訓、すばらしいノウハウが秘められているのです。ご当地に欠けているのはそういう点じゃないかと思

います。この人たちから、知識と情報を知恵と才覚に変えていく力を学びなさい。三番目は、四つ「ばり」を追究してほしいと思います。一つは「見えつぱり」。それから「さつぱり」稼がないでですね。「足引つぱり」これも引っぱるなら手を引っぱってほしいですね。もう一つは「強情つぱり」はやめてほしい。要するに「石橋をたたいても結局渡ろうとしない」気風だけは早めに開放しようということ

です。最後にこういったシンポジウムは一回ではしょうがないですね。まあ三年ぐらいはやってほしいと思います。

**山本**・青年会議所の事業の一つとして、これをやるのじゃなくて、このシンポジウムによりどこまでやる気をおこすかということだと思

います。そういう意味で、活性化の原動力になるように継続して取り組んで、そして実現への一歩としていただければありがたいと思います。

**三宅**・今日参りまして本当に心がうたれたのは、ここにお集まりになつてくることがほとんどが若い人であるということと女性がずいぶん参加されているということ。こういうふうな若い人で熱気あふれる会議というのは初めてです。そういう意味において、大館は大

本館に大館市のことを考えれば大館はきつとよくなると思います。曲げわっぱについて少し話しますが、いまの曲げわっぱのデザインだけでは、買ってくれる人は少ないし、大館の顔にもなりません。この曲げわっぱをもう一つのモードの段階まで上げ、そして売り出していくことが必要だと思



清水教授

います。いま人間の価値観がだんだん変わってきており、非常にいい時期、文化の時代に入っていますから、みんな考えてやれば大丈夫だと思

います。**清水**・皆さんのご提言やアドバイスのお話を拝聴して感じたことをお話ししたいと思います。従来、行政の支援があれば自分たちはこれができるよという姿勢からです

ね、自分たちにはこれができないから行政でも支援してほしいというように発想を転換していかないとはいけません。すなわち大館の皆さんのやる気ということ

です。二十一世紀は、国際化社会、高齢化社会、情報化社会……といわれていますが、これは地域間競争の社会なんです。大館の人が自ら地域を創造するとき、秋田県

の六十八市町村は敵なんです。その中でシノギを削って大館を残していかなければなりません。そんなとき誘致企業がないから、人の和がないから、高速道路がないから、自分たちの地域はよくならないといったグチがよく聞かれます。もし何もないのなら、なんでもできるんだという発想にかえていただきたいと思

います。また先ほどお年寄りの方がお話をされましたが、お年寄りの方々はいろんな知識を持っておられます。ちょうどいい社会参加が、何か大館でできるとすれば、すばらしいと思

います。**市長**・熱心なデイスカッションをしていただき、なんか先が見えてきたような、勇気がわいてきたような感じがしています。当市の素材型産業は、このとおり大変な不況にさらされています。なんとかして早い時期に脱皮したいし、自らの力でこの地場産業をなんとかしなければいけないと考えています。それに必要なことは、知恵

と勇気を、そして具体的に行動を伴って付価値を高める地場産業の転換を図らなければならぬと思

います。一方では企業誘致も熱心にならばいいこうと思ってい

ます。それによって大事なのは、若い方々にじょうずに世代の交代を図らなければ時代に取り残されてしまうのではないかと思っています。討論の中にもありましたが、石橋をたたくことも結構ですが、勇気をもって渡っていく、そういう体質に自身を変えていかなければ、いつまでたっても脱皮できないと思

います。渡部先生からもご指摘ありましたように、回を重ねて本物化していきたく思

※編集の都合によりシンポジウム内容の一部を割愛させていただきました。ご了承ください。

# 私の年賀状

あけましておめでとございます。  
市民の皆さんのご健康とご活躍を心からお祈り申し上げます。

さて、今年の干支（卯年）にちなんだユニークで楽しい手作り年賀状を、市民の皆さんからたくさんいただきましたのでご紹介します。



務安文斎さん(田町・60歳)



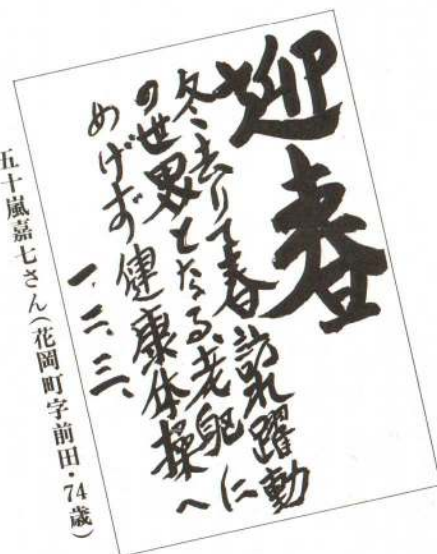
山内一平さん(常盤木町・52歳)



平泉洋子さん(東台一丁目・33歳)



成田レイさん(東台六丁目・53歳)



五十嵐嘉七さん(花岡町字前田・74歳)



## 市民スキー大会

とき・2月8日(日)

午前9時 開会式  
午前10時 競技開始

ところ・大館スキー場(アルペン)  
市民の森(ノルディック)

種目・回転及び大回転  
長距離及びリレー

参加申込・1月20日(火) 正午まで  
申し込み及び問い合わせ

社会体育課 ☎42-0310



### 大館・道目木・花岡の スキー場オープン

市及び体育協会では、花岡・道目木両スキー場に続き、大館スキー場にもロープトウと夜間照明を設置しましたのでご利用ください。

#### 〈利用料金〉

- ・5回券 200円
- ・12回券 400円
- ・1日券(10時～16時) 800円
- ・団体券(10人以上の団体で1日利用) 1人、300円
- ・スキー教室 1人、100円

※ナイターは回数券を利用ください。

#### 〈営業時間〉

- ・大館スキー場 ☎49-0262  
10時～16時、17時～20時
- ・道目木スキー場 ☎52-2575  
10時～16時、17時～20時
- ・花岡スキー場  
10時～16時、17時～20時

◆ 釈迦内公民館の管理人を募集——夜間、休日の建物の管理と清掃のできる方(50歳以上65歳未満)を募集しています。申し込み及び問い合わせは、市教育委員会社会教育課(内線255)へ





斎藤拓嗣さん(柄沢字狐台・8歳)



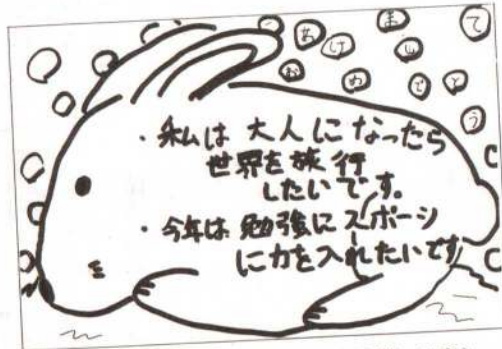
川上まいごさん(片山一丁目・8歳)



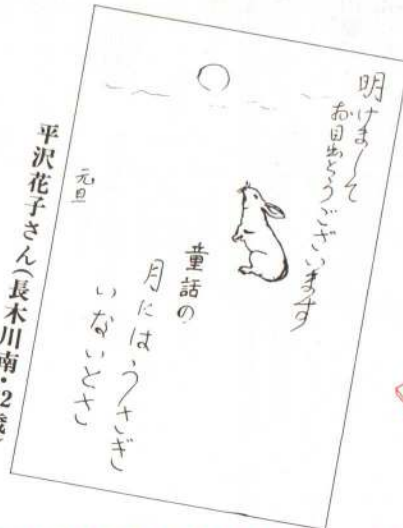
中田克平さん(柄沢字狐台・31歳)



桜庭一将さん(たつみ町・9歳)



兜森ひとみさん(鉄砲場・11歳)



平沢花子さん(長木川南・62歳)



明石京子さん(陣場・53歳)



## 清水和音、堀正文、上村昇 ピアノトリオ演奏会

- と き・1月17日(土)午後6時30分
- と ころ・市民文化会館
- 入場料・S席2,500円、A席2,000円、B席1,500円
- 演奏曲目・メンデルスゾーン  
ピアノ三重奏曲第1番ニ短調作品49
- ・シューベルト  
ピアノ三重奏曲第1番変ロ長調作品99

## 1月6日は消防出初式

- ◆大館神明社  
午前8時20分  
・無火災祈願
  - ◆大町中央通り  
午前9時10分  
・観閲式
  - 午前9時25分  
・ハンゴ消防車の訓練
  - 午前9時30分  
・まとい振り
- ※なお、7時30分に、消防団員の召集と火災予防を呼びかけるサイレンを鳴らします。
- 新春恒例の消防出初式は、大町中央通りを会場に行われます。

〈訂正とお詫び〉広報12月16日号6ページ記事中で次のとおり誤りがありましたので訂正してお詫びします。  
年末年始の市役所休業期間及び各公民館等の貸し館期間「12月28日～1月5日」→「12月28日～1月4日」

保育園のご案内

昭和六十二年度の保育園児をつぎのとおり受け付けします。現在入園中で、六十二年度も引き続き入園される方も申し込みください。受付期間・1月6日～30日

▽城南保育園 42 1806 3歳以上児 150人

▽有浦保育園 42 1149 3歳以上児 90人

▽釈迦内保育園 48 2231 3歳以上児 35人

▽十二所保育園 52 2172 3歳以上児 45人

▽大館乳児保育園 42 5130 3歳未満児 52人

0歳児 8人

申し込み及び問い合わせ

市福祉事務所(内線207)まで。(十二所・釈迦内保育園でも受け付けします)

1月の夜間当番医

- 1月1日(木) 丸屋医院
2日(金) 渡辺医院
6日(火) 森川医院
7日(水) 渡辺胃腸外科医院
8日(木) 石田病院
9日(金) 石塚医院
13日(火) 大峽整形外科医院
14日(水) 小山西内医院
15日(木) 根田医院
16日(金) 金田一医院
20日(火) 小松クリニック
21日(水) 神林外科医院
22日(木) 佐々木内科医院
23日(金) 佐々木小児科医院

最低賃金が改正

秋田県内の産業別最低賃金が、つぎのように改正されました。すべての事業主は、この最低賃金以上の賃金を支払わなければ労働者を使用することができず、違反すると最低賃金法により罰せられます。

Table with 3 columns: 業種別, 1日(円), 1時間(円). Rows include 食品・飲料・飼料製造業, 繊維産業, 木材・木製品・家具・装備品製造業, etc.

精皆勤手当、家族手当、通勤手当、及び賞与、時間外手当などは最低賃金の額から除外されます。適用除外、その他の照会、相談については、大館労働基準監督署へ 42-4033

絵本を楽しむ会へ

とき・1月9日(金) 午前10時30分
ところ・市立中央図書館
対象・幼児及び小学校低学年
絵本・「おんちよろきょう」「十二支のはなし」「火のとおり」ほか

働しながら学ぶ 東高校定時制生徒募集

県立大館東高等学校では、昭和六十二年の定時制への推薦入学者(面接のみ)を募集します。

医療費通知書を送ります

市では、国民健康保険加入者を対象に、六十一年度上半期にかかった医療費を「医療費通知書」でお知らせします。

在宅身障者の将棋大会

とき・1月25日(日) 午前10時から
ところ・サン・アペリティーブズ大館
対象・身障者手帳の交付を受けた市内に居住する満16歳以上の方

市民の善意

- ▽福祉事務所扱い 東海林とめさん(芦田子) 衣類
▽老人ホーム扱い 美容組合 美容奉仕
大館南高校JRC 慰問、みかん
北秋田林業連絡協議会 クリスマスツリー
宮原文弥さん(一心院) 1万円、みかん
正札竹村 商品券

物品納入業者を受け付けします

市で使用する物品を納入する業者を、六十年度から登録制にしていきますが、三月三十一日以前に登録期間が切れるため、つぎにより物品納入業者の登録を受け付けします。現在登録されている方も、新たに登録手続きが必要となります。

広報マン写真展

「広報マン写真展」をつぎの日程で開催します。鹿角・大館・北秋田の各市町村の広報担当者が地域住民の皆さんを撮った写真を展示しますので、皆さんのご来場をお願いします。
とき・1月15日(木)～18日(日)
午前10時～午後6時
ところ・中央公民館展示室